



## 逸材発見

元CAにして、作編曲の才能も…天はいったいくつの恵みを彼女に与えるのか？

美女と野獣…なんてつぶやく声が聞こえるけど、確かに「野獣」っていうのは「ニューオリンズ」にふさわしいかもね。なんといつても、BSCのラインアップの中ではもっともヘヴィなタイプ。どうですか、この無骨なまでのデザイン…。

「確かにぱっと見は重そうですけど、実際に持ってみるとそんなに重さを感じないんですよ(笑)」

美女と野獣の、美女のほうがさわやかにそうおっしゃる。声の主は、トランペッターさつきかほりさん。しかし、いくらなんでも女性の腕じゃちょっと…。

「いえ、バランスがとてもいいんです。でもなにより気に入ったのは、この楽器の吹きやすさ」

え？女性にも吹きやすいんですか？

「ええ、少なくとも私にはとてもあっているように感じられたんです」

そもそものニューオリンズとの「なれそめ」は、2009年に行われた楽器フェアでのこと。そのときはニューオリンズのプロトタイプが展示してあったのだが、ご主人の小島氏とともにBSCの輸入元であるセレクトインターナショナルのブースに立ち寄ったかほりさんは、そのルックスにまず惹かれた、と微笑む。

「いつも使っているのはごく普通の楽器ですけど、実はウィントン・マルサリスが使っているモネットみたいな、ああいうルックスの楽器が好きだったんです。それで吹いてみたら、やっぱりすごく吹きやすくて…」

そう。このニューオリンズを実際吹いたヒトのほとんどは、そのヘヴィなルックスに相反するしなやかな鳴り方に驚くのだ。

「それでいろいろお話をお聞きしたら、なんと今回、私のために『かほりヴァージョン』みたいな楽器が作ってもらえるって聞いて、すごく興味を持ったんです」

かほりヴァージョン？

「ええ、それについては私が答えましょう」

ここで、BSCの創設者である加藤朋海氏登場。

「いつもできることではないのですが、本来なら管楽器は、すべて『誰か特定の個人を想定して』つくったほうが、お互いに満足する結果になるものだ、と思っているのです。料理だって、食べる人の顔を思い浮かべながら作れば美味しい料理ができるでしょう？でも、実際にはそういうことはなかなか実現できないのですが、今回はたまたま、そういう手法をとってみよう…と思ったんです。できればすべての楽器をそういうやり方で手がけたいのですが、それは現実的に無理なことですよ(苦笑)」

音楽を創るのは人間である。だから、その楽器を吹く人のことをよく知れば、それだけその人にあった楽器が創れるし、そういうメーカーで

# Best Sound Club へようこそ

BSCの創設者、加藤朋海氏が満を持して持参したスーパーモデル「ニューオリンズ」を手に入れているのは、スーパーモデル…に見えるけど、実は、喇叭(らっぱ)吹き。そして、さらにある才能を持っていて、その前身は意外なお仕事で…と、実に話題豊富なこの美人は、一体誰？

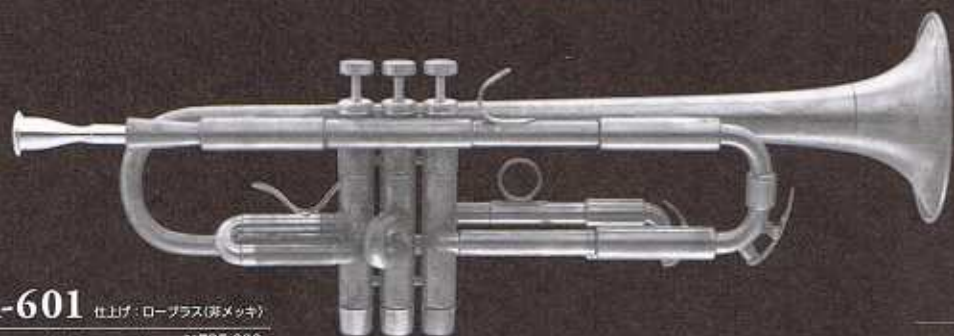
# BSC

Brass Sound Creation

from Luxembourg

- TR-501G "WM" ¥703,500 <ケース付> 仕上げ: シルク24K金メッキ
- TR-303S "シンフォニー" ¥417,900 <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-206S "オールラウンド" ¥302,400 <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-106S "ニューヨーク" ¥260,400 <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-105S "ミレニアム" ¥207,900 <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ
- TR-C01S "アルマンド" <C管> ¥448,350 <ケース付> 仕上げ: 黒メッキ

ヨーロッパのハンドメイドが培った完成度



TR-601 仕上げ: ローブラス(黒メッキ)

"ニューオリンズ" ¥735,000 <セレクトハードケース付>

※マウスピースは付属していません。



モノクロでわかりづらいが、同じ工程を経てもこれだけ色に違いが出る、という好例。上が赤っぽく、下が青っぽく仕上がっている



2月3日には川崎市市民プラザふるさと劇場で「バッハ/カンタータBWV 78『追憶』」を演奏するさつきかほりさん。金管5重奏から吹奏楽、特殊な編成のアレンジ依頼も受付中

ありたい。それが加藤氏の信念なのである。

「最初にお会いしたときは、みんなで食事しただけで、かほりさんの演奏は聞けなかったんです」

と加藤氏が言えば、

「ええ、だから加藤さんは私がどれだけ吹けるか、あるいは吹けないか(笑)を知らないんですよ」

とかほりさんが笑う。素敵な笑顔も当然で、かほりさんは元スチューワー…じゃなくて、キャピアンテナント(CA)。トランペットを教わり始めるときと腕前をあげたが、さらにすごいことに、見よう見まねで作編曲までたしなむようになった。ご本人は、やりたいようにやっているの、たいたことをやっているつもりはない…と謙遜するが、その編曲の腕前は完全にプロ級。彼女がアレンジを提供しているのは「Tokyo WOW! 4 (トキョーワウフォー)。サクソとトランペット、ユーフォニアムとクラリネット…というユニークな編成なのだが、このアンサンブルの

座付きアレンジャーなのである。確かに、こんな編成のための楽譜はほとんど(まったく?)存在しない。が、座付きアレンジャーがいるとなると、心強い。しかも彼女はアイデア豊富で、たとえば《展覧会の絵》をアレンジするときも、単に曲を移し変えるだけではなく、他の曲を挿入したり、フレーズを組み合わせた…とにかく聴いていてあきさせないアレンジを書ける、天才肌の美女なのである。

そんな彼女のために加藤氏が創ったニューオリンズが、やってきた。



加藤明海氏とさつきかほりさん。来年はこのふたりがなにかとつものことを仕掛けそうだ…

なんと、楽器の色がこれまで見てきた「ニューオリンズ」と違う。

「これは表面の真鍮が酸化皮膜におおわれたせいで、もとは単なる真鍮なんです。それをある薬品につけて加工すると、こういうきれいな色合いになるんです。これはある種の拳銃や、マシンガンに似た、クールな色が出ましたね」

青みがかった黒が、艶やかに光る。息を呑むほど美しい。モノクロなので、見せられないのがツライ…

「化学変化なので、これと同じ色がふたたびできる保証はどこにもない。

しかし、もっといい色に仕上がることだってあるんですよ」

加藤氏の言葉ににっこりするかほりさん。来たる2011年は自らのライブの他にも、挑戦したいアイデアがたくさんある、とのこと。ニューオリンズを手に、選

爽と業界を駆けぬけていくであろうかほりさんの来年の活躍が楽しみである。

【さつきかほりライブ情報】

●冬のロビーコンサート

日時: 2010年12月19日(日) 18:00開演  
会場: 貝取こがし館(多摩市立貝取コミュニティセンター)  
〒206-0012 多摩市貝取4-5-1 TEL:042-389-4196  
<http://www.city.tama.lg.jp/bunko/47/2007/002012.html>

曲目: アヴェマリア(グノー)、オブリビオン(ピアソラ)、ニューシネマパラダイス(モリコーネ) 他  
出演: さつきかほり(トランペット)、調久美子(フルート)、林妙子(ハープ)

●みやまえ新春コンサート2011

日時: 2011年1月23日(日) 14:00開演  
会場: 宮前市民館大ホール(東急田園都市線宮前平駅より徒歩8分)  
入場料: 500円  
曲目: モーツァルト/「魔笛」抜粋、エルガー/威風堂々第1番、メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲第三楽章、サンサーンス/白鳥、リムスキーコルサコフ/交響曲「シェヘラザード」より 他  
出演: 藤田真以子(ソプラノ)、西川朝子(ソプラノ)、ビーノ松谷(バリトン)、松本裕香(ヴァイオリン)、渡合唯樹(フルート)、宮前フィル独奏アンサンブル、さつきかほり(トランペット)、香山香蓮(チューバ)、中山京(ハープ) 他

問合せ先: 地域振興課まちづくり推進係  
044-856-3125



The Saxophones Produced by  
**Kenny G.**



シルバー  
ダークゴールドラッカー  
ブラックニッケルwithシルバーキー

Soprano

¥178,500 ~  
¥210,000

Alto

¥147,000 ~  
¥168,000

Tenor

¥168,000 ~  
¥189,000



日本総輸入元

株式会社 **セレクト インターナショナル**

〒272-0836 市川市 北園分 1-8-2  
e-mail: info@select-inter.com

TEL: 047-374-0792 FAX: 047-372-2704  
URL: <http://www.select-inter.com>